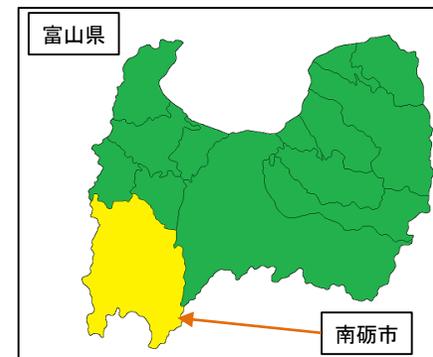


# 地域農産物を使った加工・販売と都市農村交流による地域の活性化

（富山県南砺市 なんとし 細野集落協定）



- 都市農村交流イベントの開催や、農家女性を中心とした加工品の開発・販売を行い、地域の活性化に取り組む。

協定面積：54.2ha（田） 交付金額：840万円（共同取組活動94%）  
協定参加者：農業者35人、農業法人2、農業者以外16人 協定開始：平成12年度

## 地域の現状

- 当地区は、中山間地の入口に位置し、協定農用地の6割が急傾斜。農業者の高齢化や減少が進行し、適切な農地の維持管理が困難になってきたことから、制度当初から、本交付金を活用。
- 農地については、集落の担い手である農業法人へ集積している。担い手法人は、米価の下落、生産調整、大麦跡ほ場の有効活用と水稻栽培が困難なほ場の荒廃を防ぐため、水稻のほか野菜栽培に取り組んでいる。
- 近年では、イノシシによる農作物被害が増加し、電気柵設置などの獣害発生防止と、水路・農道の補修などの条件整備に取り組んでいる。



【大麦ほ場】



【水路の補修】

## 取組の概要

- 協定農用地の9割を担い手へ集積し、効率的な生産体制を確立。（農業法人に48.8ha集積）
- 集落の女性達により、収穫した大かぶを使った、郷土料理である「かぶら寿司」等の漬物やもち加工品、小麦「農林10号」を使ったパン等の製造を行い、地区内で生産から加工、販売までの一貫体制を構築。  
※「農林10号」の育種者は、当地出身の稲塚権次郎氏。
- 大かぶ収穫体験や、かぶら寿司や味噌、パン作りなどの加工体験や、近隣集落と連携して開催する都市農村交流イベント「権次郎まつり」で、小麦「農林10号」を使ったそうめんやうどん等を提供し、地域の活性化に取り組んでいる。



【集落の女性達と「農林10号」と加工したパン】



【大かぶ収穫体験】